

# 猛威・脅威 19号



この度の台風被害に  
遇われました皆様に

お見舞い申し上げます

10月11日台風前日、テレビからは「今だかつて経験した事のない・・・」

「風速60メートル」

「命を守る行動・・・」と  
注意を促す報道が続いて  
いました。はぐるまの

施設が集中する中野島は  
ハザードマップで氾濫

推定区域に指定され、多摩  
川・三沢川の合流地点は  
特に警戒しなければなり  
ません。

12日直撃を受けること  
が濃厚になり・昼には  
中野島全域へ避難警告が

発令されました。それを受け中野島地域  
ホームの利用者さん・夜勤職員含め12人が、  
高台の宮前区水沢の、作業所・みどり・あお  
ばホームに避難し、分散して一夜を明かしま  
した。

生活の場が変わる、硬い床での生活等、仲間  
の不安は募ります、一晩だけだったので、ど  
うにか持ちこたえましたが、避難生活が長引  
くと、どのような被害が生じるのか、身をも  
って体験をしました。

仲間の中には、指定避難所の小学校に避難  
した方もいて状況を聞くと、「避難所は人が  
たくさんだった1階の教室がたくさんだつ  
たので、2階3階と上り、4階に入ることが  
でき、そこもすぐに一杯になったので、机を  
廊下に出したりしました。廊下にも人がたく  
さんいました。」今までテレビで見てきたこ  
とが現実にかきた現状報告でした。

一夜明け周辺で床上まで浸水した所も

あり、緊迫した状況だったことが、わかりま  
した。

宮城県南三陸の青山様から、即日お電話を  
頂きました。ご自身が津波の脅威を経験され  
ているので、こちらの状況を心配されている事  
です。施設や仲間たちに被害がなかったこと  
をお伝えしました。常に心を寄せていただい  
ていることに感謝申し上げます。

東日本大震災3・11の時は海の脅威・この  
度は川の脅威と自然は予想外の力で迫って  
きます。地球規模の課題だとの認識はあるも  
のの、まずは命を守り・生活を守ることを、  
より具体的に対策を進める必要性に迫られ  
ています。

課題として早急に解決しなければならない  
ことは、関係者への、緊急連絡のありかたでし  
た。速やかに状況把握し、対策を講じ、関係者  
に連絡をする。安否の確認も含めて、緊急連絡  
情報の共有を整えていきます。

No.109

2019年11月22日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区

菅馬場 1-18-17

TEL 044-946-1308

# おいしいは幸せ 沢山の皆さんに感謝 はぐるま稗原農園収穫祭

農作物にもたくさん被害をもたらし、生産者の方のご苦労はこれから始まるのだと思います。ここ宮前稗原農園は、幸い大きな被害はありませんでした。11月3日の収穫祭を迎えるにあたり、農園の整備をしていたことも幸いであつたかと思えます。



## 地域との交流を目指して

～2019年はぐるま稗原農園収穫祭～

毎年、天気予報を気にしながら11月3日へ向けての準備を進めています。今年はこれまでとは心持を異にして空をみていました。台風被害に遭われた方々の日常が戻ることを願っています。

幸いにも11月3日、好天に恵まれ第7回はぐるま収穫祭を無事に開催することができました。宮前区稗原地区にやってきて最初の焼き芋大会から始まったはぐるま収穫祭は多くの方々の支援の元、試行錯誤を繰り返しながら仲間たちと地域の方々との交流を目指してきま

した。今年は収穫祭のテーマを「はぐるま体験を通して、地域との交流を深めよう！」として、地域交流をより意識しながらの収穫祭となりました。

各作業所が日々取り組んでいる「仕事」を地域の皆様に知ってもらおう、そして一緒に体験し、楽しんでもらう中で

仲間たちとの交流を目指しました。

第1作業所は焼き菓子作り、第2作業所ではハーブティのブレンド体験、菅工舎はガーランドとポプリ作成、工房は野菜の収穫体験。

仲間たちの日常を子供たちはじめ少しでも多くの方々に触れてもらえたのではないかと思います。仲間たちが収穫祭の会場のあちこちで活躍し、来てくれた方々に積極的に関わりながら同じ場所と同じ時間を共有できる「お祭り」になるようこれからも工夫を重ねていきたいと思えます。

また、ステージでは年々力強さを増している仲間たちの太鼓発表、民謡披露、地域の方々の演奏、合唱に加え、今年はボーイスカウトの子どもたちが「パプリカダンス」を披露してくれ大変盛り上がりしました。最後は東北支援でお世話になっている海藤さんによるライブでしみじみといつもとと同じ収穫祭のフィナーレを迎えました。

地域自治会、青年会、ボランティア、近隣農家の方々、近隣大学の学生など多くの方々の理解と支えをいただきながら、また来年、よりよい交流を目指した収穫祭を開けるよう、毎日の仲間たちとの日常に向き合っていきたいと思えます。ご協力を頂きました皆様に、感謝申し上げます。(はぐるま工房施設長 新井多佳夫)

## おいしいに感謝

### 菊池シェフと作ろう！

菊池 猛さんはフレンチ（フランス料理）のシェフです。今まで作業所で、仲間と一緒に、花ハウスレストランのランチメニューや、パンの新メニュー開発を行ってきました。

仲間のたつての希望は数十年も前から言い続けている、「お店を持ちたい」に近づくためのチャレンジにもなっています。調理の基本から職員も含めて、毎日が修行です。

作業所を中心に行っている活動を、ホームの調理実習にも来ていただき、新しい料理に挑戦中です。

第1回目は、「みんなで楽しくパエリアパーティー」2回目は、「野菜をたくさん！おいしいドレッシングで食べよう」をテーマに全8か所のホームを巡って頂いています。

「シェフが来るよー」で皆さんワクワクしながらお待ちかね。「パエリア」はおいしかったと好評でした。仲間たちの調理に対する意欲と技能はかなり高く、自信をもって取り組んできました。日常のちょっとした楽しみを大事にし、豊かな生活が出来ると思います。次は何作ろかな？



**各ホームでのワクワク&ドキドキの調理実習！ 仲間と一緒に食べるご飯は、とってもおいしいです！**

**12月4日(水)中野島会館(中野島新多摩川ハイム内)にて 13:30 より**

**仲間の家(多摩地区拠点施設)建設計画(案)説明会及び懇談会を開催いたします！**

### 仲間の家 建設計画に関するご報告

前回号でご紹介をしました仲間自治会の「仲間の家アンケート」での要望に加え、ご家族から寄せられた仲間たちに適した最新の設備環境、誰もが使える会議室とイベントホール等、地域との交流拠点となる施設のご意見も踏まえ、中期計画プロジェクトチームより、この度、仲間の家基本コンセプト（第一次案）をご報告いたします。

#### 【仲間の家建設計画 基本方針】

「地域との交流を通し、求められる役割に応えながら中野島・菅地域で暮らし続ける」世代を超えてはぐるまの仲間たちが地域に求められ、地域社会の中で交流を継続していく施設の建設を目指します。

#### 【施設コンセプト】

「仲間たちが『働く』を通して中野島・菅地域で活躍・交流を続ける場」

仲間たちが核となり、子育て世代から高齢世代が混在して暮らす特徴を有している地域特性を生かした交流拠点を目指します。

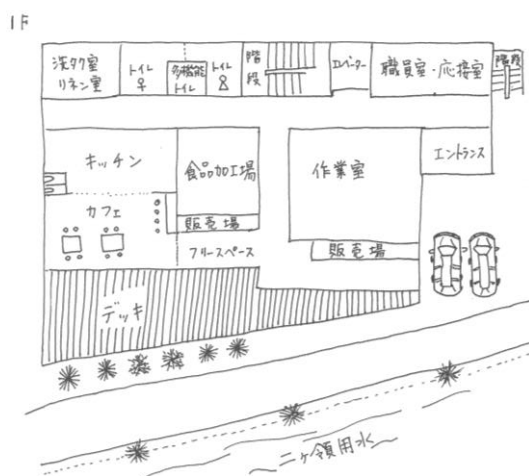
#### 【はぐるまの願いと地域ニーズ】

仲間たちの暮らしの中ではぐるまの会は「働く」ことを重視してきました。設立から35年を過ぎ、社会の中で働き方の価値観の多



中野島会館 案内図

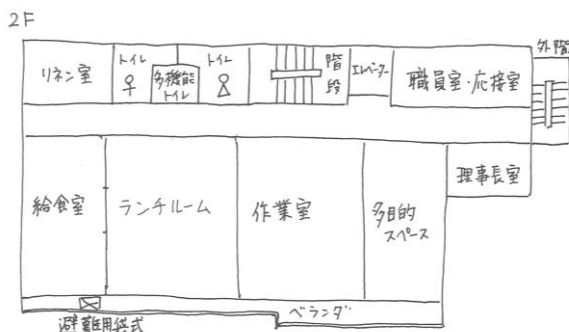
## 【建設計画案 概要図】



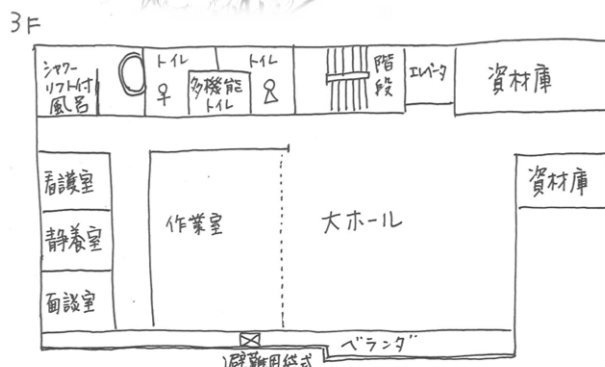
1階「アンテナショップ!」「地域交流カフェ!」



2022年 春 開所予定!



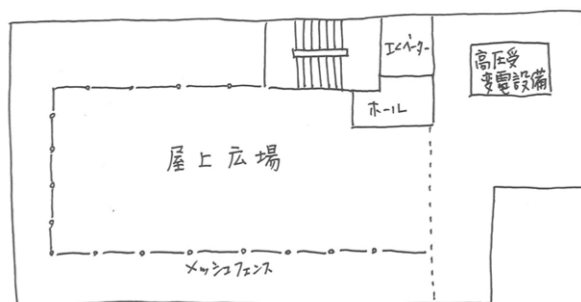
2階「学びと技能を生かしたモノづくり工房!」



3階「誰でも使える大ホール&会議室!」



「寄付あるがやみ」プロジェクト  
赤い羽根共同募金会様より頂いたご寄付で第4ホールの仲間3名の居室に新しいエアコンを設置することができました! 快適な生活を送ることができですね。ありがとうございます。



屋上階「調布花火大会」がよく見える